

2020年 6月14日礼拝式次第

日本基督教団半田教会
横山良樹牧師

招詞 : 詩96篇1-2節

新しい歌を主に向かって歌え 全地よ、主に向かって歌え
主に向かって歌い、御名をたたえよ。
日から日へ、御救いの良い知らせを告げよ

讚美歌 : 21-211番（あさかぜしずかにふきて）より1番のみ

あさかぜしずかにふきて ことりも目さむる時
きよけき朝よりきよく うかぶは神の思い

詩篇交読 23篇

祈 禱

わたしたちの救い主、主イエス・キリストの父なる神様。この地方も梅雨に入りました。恵みの雨によって大地がうるおされ、季節が巡ってゆく自然の摂理の中に置かれています。わたくしたちの命があなたの統められる時間の中で、すべて保たれていることを覚えて感謝をいたします。全国的に緊急事態宣言が解除され、新しい日常への段階的に移っておりますが、根本的な対応策が見出されたわけではありません、どうかわたしたちに御目をそそぎ、あなたの民をお守りください。また今回のコロナウィルスが炙りだした社会のひずみや格差、わたしたち人間の心のなかにある闇を思います。どうか分断や排斥ではなく、和解と一致に生きることの出来る新しい心をわたしたちのうちに創造してください。その力はあなたの御言葉の中にあることを信じて、御名を崇めます。どうか、キリスト・イエスが、わたしたちのために十字架にかかり、その命をもってわたしたちの罪を赦し、復活のいのちに生きる希望を与えて下さった恵みを覚えて、肉体の死によっても滅ぼすことの出来ないあなたの愛を、わたしたちの心のうちに刻んでください。今朝も、あなたの御前に集い、あなたを賛美するわたしたちをひとつの民とし、力づけてください。聖霊を送って、この場を支配し、恐れと停滞を吹き払い、あなたの器として生きる事の出来ますように、整えてください。今から、御言

葉に聴きます。ひとりひとりの課題に、あなたが触れて下さり、示しを与えてくださいますように、この日、世界で持たれるすべての礼拝において、生けるあなたの御名があがめられますように。この祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

聖書朗読 : マタイによる福音書 6章 25～34 節

だから言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物より大切であり体は衣服より大切ではないか。空の時をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養って下さる。あなたがたは鳥よりも価値あるものではないか。あなたがたのうちのだれが、思ひ悩んだからと言って、寿命をわずかでも延ばすことができようか。なぜ衣服のことで思ひ悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げこまれる野の草でさえ、神はこのように装っていてくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか。信仰の薄い者たちよ。だから、「何を食べようか」「何を飲もうか」「何を着ようか」と言うて、思ひ悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがあなたがたに必要なことを御存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすればこれらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思ひ悩むな。明日のことは明日みずからが思ひ悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。

讚美歌 : 21-194 番「神さまはそのひとり子を」(1・2番)

神さまはそのひとり子を 世の中にくださったほど
世の人を愛されました。
神の子を信じる者が 新しい命を受けて
いつまでも生きるためです。

説教： 「いちめんの菜の花、そらには雲雀」

「思い悩むな」と、イエスさまはわたしたちに言われます。あなたたちは「自分の命のことで、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようか、思い煩ってはならない」、そう言われます。聖書で、この「思い煩う」と訳された言葉は「心があちこちに引っ張られる」という意味の言葉だと言われます。すこしみやびな言葉でいうと「思いが千々に乱れる」ということでしょうか。「千々に」というのは「幾千」にもということですね。たしかに漢字を思い浮かべてみても「心」という漢字は全部で4画から成り立つものですが、どの一つもほかの三つと接してはおらずバラバラです。心の不安定さをかたちも表しているように思います。イエスさまは、わたしたちが命のことで様々な思い煩いをするのは、心を切り刻み、消耗させることだと知っておられました。わたしたちが進む方向を見失い、立ち往生させることだと理解して、憐れんでおられました。だから、思い煩うなと命じられ、平安の礎がどこにあるかをこの説教の中で示して下さいましたのです。

この数か月の間、わたしたちはコロナウィルス感染症のために、いつもにもまして「思い悩む」日々を過ごしてきました。世界中のひとびとが、今回のコロナウィルスの猛威にさらされました。医療崩壊の悲惨なニュースがお茶の間にながれ、感染と死の恐れがわたしたちをとらえ、扉に鍵をかけて家に閉じこもらせました。マスクが必需品となりました。人の顔のようすが伺えなくなりました。2メートルの距離を取るよう勧められました。交わりに生きることが感染の危機につながる困難な状況の中に置かれました。こんな事態が起きるとは誰も想像が出来ず、人間の全能感をくじく出来事であったのは間違いないと思います。わたしたちの限界といいたいでしょうか、コロナウィルスの問題を通して、わたしたちの際限のない自由な振る舞いや計画に対して、イエローカードの提示、あるいは一旦停止、場合によっては回れ右が命じられているかのようです。国内でも感染者の増減や、感染地域の拡大など、ひとつひとつの出来事に、わたしたちは振り回されました。思い悩んだ数か月でした。だからでしょうか。今回、この御言葉を朗読しておりますと、なにか渴いた土地に水が沁みこむような感じを味わいました。イエスさまが、この時に、わたしたちに「思い悩むな」と命じられたことが、なにかこう大事なところにポンと石を置かれたような、うわついているわたしたちの肩にすっと手が置かれたような、押さえるべきところをきちんと押さえて

頂いた安心感を覚えます。むしろウィルスの脅威が消えたわけではありません。しかし、命の問題を見る角度といいますか、命の消息をどう捉えるかということについて、ひとりよがりなわたしたちを諫め、神さまとの交わりに生きる招きとして、慰めを与える御言葉であることは間違いありません。

イエスさまは問題の本質をきちんと見抜いておられます。本来、わたしたちが扱うことのできないものを扱おうとしていること、また扱うべきものの優先順位を取り違えていることがすべての原因なのです。

思い煩いの原因は単純で、手にあまることを扱うからです。自分の能力や認識の外にあるものを扱おうとし、支配しようとするからです。本来、コントロールできないものをコントロールしようとしている愚かさにわたしたちが振り回されていることをイエスさまは知っておられるのです。わたしが持っているのはコーヒーカップなのに、湖の水が入るような入れ物を持ちたいと考える人のようです。それは不可能なことであると、イエスさまは知っておられるのです。つまり、命の問題です。命は、わたしの自由になるものではありません。最終的な決定権はわたしにはないのだということを丁寧に、噛んで含めるように教えて下さっている。人間は生まれる時も死ぬときもいずれも受け身です。この特別な時をコントロールできるものはいないのです。この基本的事実を確認するだけでも、わたしたちの命は自分だけで完結していないことがわかります。わたしの時は、神さまの恵みのご支配の中に置かれていることを認めることが心の平安への第一歩です。命という負いきれない重荷を、イエスさまはわたしたちの手から取り上げて、天地万物を創造し、恵みのうちに保ってくださる天の父に移してくださる。そのために、イエスさまはここで、わたしたちの想いとそれを探る目を空の鳥と野の花に向けるようにお命じになりました。「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる」「野の花がどのように育つのか、よく学びなさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾っていません。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装って下さる」

そう注意を促したのです。鳥や野の花がわたしたちの人生の教師になる。なんとも痛快ですが、そんなふうを考えるひとはいないでしょう。しかし、イエスさまは大まじめに、きわめて厳かにそういわれたのです。この花はアネモネではないかと言われていています。草原の中にポツンぽつんと赤い五弁の花びらを風に揺らせている植物です。可憐な花です。小さな花です。造り主

である神がアネモネをそのように美しく装われました。しかし、人間はその花を簡単に手折り、枯れたその花をたきつけにし、炉にくべてしまう。一瞬にして消え去る美しさ、存在に対して、神さまがどれだけの配慮を与えているかを、よく学びなさいと言われる。この「よく見なさい」「よく学びなさい」と訳された言葉はただ「見て学ぶ」ではなくて「よく」にあたる接頭語がついています。「上から下まで」「初めから終わりまで」の意味があります。立ちどまって野の草花に注意深く目を向けてみることに、空を仰いで梢で鳴いている鳥の声に耳を傾けてみることに、わたしのまわりにある命がどのように保たれているか、緑の秘密、空の秘密に、わたしたちの心の目を向ける時、サイエンティアが見えてきます。サイエンティアとはラテン語で知恵を意味する言葉です。旧約聖書の箴言にある「主を畏れることは知恵の初め」という御言葉、ウルガタ訳のラテン語聖書は、これを「Timor Domini Principium Scientiae」と訳しました。この知恵がサイエンティアであり、それは自然をさしています。神は聖書と自然というふたつの書物を書かれた。読むことの出来る御言葉である聖書と読むことは出来ない御言葉によって造られた自然と。自然を研究することは、神の創造の秘密を解き明かす神賛美の行いでした。「主を畏れることは知恵の初め」とあるように、サイエンティアを説き明かすことで、神の創造の神秘に迫り、アネモネを美しく装い、空の鳥を養われる神の恵みのご支配、すなわち摂理を明らかにする目的があったのです。神さまを知ること抜きにして、あなたの命を考えてはならないとイエスさまは言われます。そして「主を畏れることは知恵の初め」というよく知られた御言葉を「まず神の国と神の義を求めなさい」と言いかえられたということもできます。わたしが、わたしの命を配慮して生きるのにまさって、天の目が、神の御心が、わたしに注がれていることを悟ることを、イエスさまはわたしたちに願っておられます。委ねる信仰を空の鳥と野の花からお示しになります。

いちめんのなののはな いちめんのなののはな いちめんのなののはな
いちめんのなののはな いちめんのなののはな いちめんのなののはな
いちめんのなののはな かすかなるむぎぶえ いちめんのなののはな

いちめんのなののはな いちめんのなののはな いちめんのなののはな
いちめんのなののはな いちめんのなののはな いちめんのなののはな
いちめんのなののはな ひばりのおしやべり いちめんのなののはな

いちめんのなののはな いちめんのなののはな いちめんのなののはな
いちめんのなののはな いちめんのなののはな いちめんのなののはな
いちめんのなののはな やめるはひるのつき いちめんのなののはな

今日の説教題の元ネタですが、1915年に出版されたクリスチャンの詩人、山村慕鳥の風景—銀色モザイク—という有名な詩です。梅でも、桜でも、堇でもよかったです。いまでもあたりまえのようにこの辺りでは見ることが出来て、冬から春への季節の移り変わりを真っ先に告げてくれるものとして、菜の花、雲雀あたりが、わたしたちに命を保たれる神の恩寵を「よく見なさい」「よく学びなさい」との招きにあたるのではないかと思いました。花が咲いていたら花の前で足を止めることです。そうしたら次に屈んで足元のアリや、ダンゴムシを見つめてみる事です。鳴き声を聴いたら鳥を捜してみるのもいい。そうして命が神の御手のうちにあることを感じ取る信仰の感性が、独り子を、わたしのためにくださったほどに世を愛して下さった神の御心とつながれば、わたしは平安です。野の草は炉に投げ入れられます。わたしたちは死にます。しかし、それは終わりではないと聖書は告げています。恐ろしいのは主イエス・キリストのいない死を迎えることです。だからこそ、わたしたちは日曜ごとにこうして教会に招かれ、命の御言葉をいただき、希望の在り処を確認し、ともに主につながれて生きる命を喜ぶのです。

お祈りいたします。

神さま、良い天気を有難うございます。この祈りは知能に重い障碍のある止揚学園のこどもが行事のある雨の日に祈った言葉です。雨の日も良い天気です。照る日曇る日雨の日も全体があなたの御手の中に位置づけられて調和と一致を保ちます。命の煩いからわたしたちを解き放ってください。あなたの御心が、わたしの上になることが最も良いことであることを悟らせてください。わたしの主に委ねて生きる平安をお与えください。御言葉に聴くことの許された良い一日を有難うございます。この願いと感謝、わたしたちの救い主、あなたの御子イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

かぎりのない ひろい心が
今日もわたしを守って下さる
「やすらかに歩きなさい」と守って下さる

献 金

報 告

添付の週報をご覧ください

祈 禱

主の御名が崇められるように。コロナウィルス感染症対策
下で、医療・介護・福祉に従事する方たちのために、とも
に礼拝をささげる日が与えられるように。

主の祈り

天にまします我らの父よ
ねがわくば御名をあげさせたまえ
御国を来たさせたまえ
御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を 我らがゆるすごとく
我らの罪をも ゆるしたまえ
我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄とは 限りなく汝のものなればなり

アーメン

祝 禱

主イエス・キリストの恵みと、
父なる神の愛と
聖霊との親しき御交わりが
主の恵みのご支配を信じてこの世を生き抜く
あなたがた一同の上に、とこしえにあるように。

アーメン！